



第2章 水道事業の概要

2.1 藤枝市の概要

2.1.1 沿革

本市は、昭和29年1月に藤枝町と西益津村が合併して「藤枝町」になった後、同年3月に藤枝町・青島町・葉梨村・高洲村・大洲村・稲葉村の2町4村が合併し市制が施行されました。その後、昭和30年に瀬戸谷村、昭和32年に広幡村が編入され、平成21年1月に岡部町と合併し新しい藤枝市が誕生しました。

本市は、古くから交通が発達し、東海道の宿場町として栄えました。現在では、JR東海道本線、新幹線、国道1号バイパス、東名高速道路に加え、平成24年に開通した新東名高速道路といった日本の大動脈が、まちを東西に走っています。さらに、隣接する地域にある、富士山静岡空港へのアクセスも充実し、交通の要衝として発展しています。また、郊外では住宅地の開発が進み、藤枝駅周辺では中心市街地の再開発に伴って、ホテル施設や高層マンションなどの建設が進んでいます。

2.1.2 位置

本市は、静岡県のほぼ中央に位置し静岡市、島田市、焼津市に隣接しています。

北部は赤石山系の南縁に接し、南部は大井川下流の左岸で、平坦肥沃な志太平野の中央部に位置しています。市域は、東西16km、南北22kmに広がり、面積194.06km²で、県全体の2.5%を占めており、県内35市町中第13位の面積となっています。



図2-1 藤枝市の位置

2.1.3 人口・世帯

平成27年の国勢調査での人口は143,605人で、平成2年と比べ、10,458人（7.9％）の増加となっています。また、世帯数では、52,315世帯で、15,405世帯（41.7％）の増加となります。一方1世帯当たりの世帯人員は2.75人で、0.86人減少しており、世帯数は増える傾向にあるものの、核家族化と単身世帯の増加傾向が進んでいます。

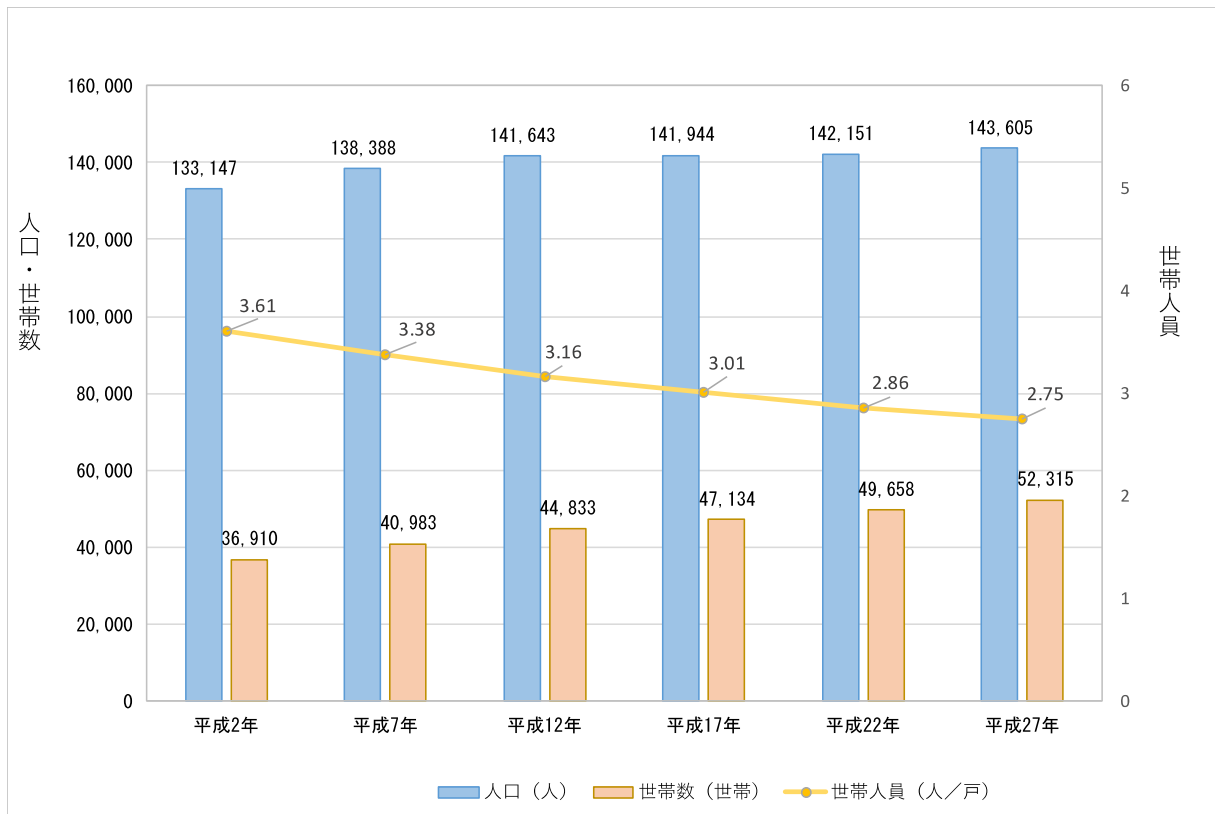


図2-2 国勢調査による人口推移



2.2 水道事業の概要

2.2.1 上水道事業

(1) 沿革

旧藤枝市の水道事業は、昭和29年市制施行後間もなく上水道の必要性が喚起され、昭和33年7月に認可を受け、昭和37年2月に給水を開始しました。以降、人口増加に伴い4回の拡張事業を実施し、給水区域を拡大してきました。

旧岡部町の水道事業は、昭和33年11月に竣工した「岡部地区簡易水道」に始まりました。人口増加を受けて昭和49年4月に「岡部町水道事業」を創設し、昭和52年3月に給水を開始し、1回の拡張事業を実施しました。

平成21年1月には旧藤枝市と旧岡部町が合併し、「藤枝地区水道事業」と「岡部地区水道事業」の2事業となりましたが、平成24年4月の統合認可により、計画給水人口を133,500人、計画1日最大給水量を60,100m³とする1水道事業になり、現在に至っています。

表2-1 平成29年度末人口

項目	現況
行政区域内人口	145,789人
上水道給水区域内人口	140,215人
上水道給水人口	132,117人
上水道普及率	94.2%

表2-2 藤枝市水道事業の沿革

地域	事業名	認可年月日	目標年度	計画給水人口 (人)	計画一日 最大給水量 (m ³)
旧藤枝市	創設	昭和33年 7月25日	昭和38年度	40,000	10,000
旧藤枝市	第1次拡張	昭和46年 2月 2日	昭和51年度	80,000	40,000
旧岡部町	創設	昭和49年 4月 1日	昭和60年度	12,000	6,600
旧藤枝市	第2次拡張	昭和53年 3月20日	昭和58年度	103,800	54,000
旧岡部町	第1次拡張	昭和60年10月21日	平成 7年度	12,000	6,600
旧藤枝市	第3次拡張	昭和61年 3月25日	平成 6年度	135,500	69,000
旧藤枝市	第4次拡張	平成 8年 3月29日	平成22年度	132,850	78,500
現藤枝市	岡部地区統合	平成24年 4月 1日	平成32年度	133,500	60,100

(2) 施設概要

本市の配水能力は 73,000 m³/日で、この内、市内 24 か所の井戸から取水する自己水源は 57,200 m³/日、静岡県大井川広域水道企業団からの受水は 15,800 m³/日となっており、各取水施設から配水場を経由して、市内各地へ配水しています。

表 2 - 3 上水道主要施設

[取水施設]

施設名称	取水井	水源能力
茶町水源地	2井	3,400m ³ /日
青南町送水場	6井	14,300m ³ /日
泉町配水場	14井	36,400m ³ /日
岡部送水場	1井	1,100m ³ /日
村良送水場	1井	2,000m ³ /日
計	24井	57,200m ³ /日 ※

※57,200m³/日は認可値で実質自己水源能力は67,000m³/日あります。

[主要配水場施設]

施設名称	配水池容量
鬼岩寺配水場	2,000m ³
泉町配水場	3,580m ³ ・3,580m ³ ※
時ヶ谷配水場	7,000m ³
内瀬戸第1配水場	5,000m ³ ・8,000m ³ ※
内瀬戸第2配水場	2,500m ³
内瀬戸第3配水場	2,600m ³
西北配水場	240m ³
志太配水場	2,500m ³
子持坂配水場	1,500m ³
岡部配水場	1,000m ³
三輪配水場	2,000m ³
計	41,500m ³

※泉町配水場と内瀬戸第1配水場には配水池が2池あります。



泉町配水場

2.2.2 簡易水道・飲料水供給施設

旧藤枝市では、蔵田簡易水道が昭和32年4月より給水を開始しました。旧岡部町では、昭和39年4月に殿西ノ平簡易水道が給水を開始した後、廻沢、朝比奈中央、桂島地区においてそれぞれ給水を開始しました。また、昭和48年4月に青羽根地区の飲料水供給施設が給水を開始しました。

平成21年1月に旧藤枝市と旧岡部町が合併したことにより、現在は、5つの簡易水道と1つの飲料水供給施設により、山間地域における給水を担っています。

表2-4 簡易水道の概要 平成29年度末

項目	蔵田	廻沢	桂島	殿西ノ平	朝比奈中央
直近認可年月日	平15.3.31	平14.3.27	平14.3.27	昭38.7.22	昭54.5.10
給水開始年月日	昭32.4.1	昭43.4.1	昭61.3.15	昭39.4.1	昭56.4.1
計画給水人口（人）	172	140	300	410	400
給水区域面積（km ² ）	6.5	0.2	0.4	0.3	0.2
計画1日最大取水量（m ³ ）	118	60	250	107	100
計画1日最大給水量（m ³ ）	93	60	250	107	100
配水池数（池）	2	1	1	1	1
配水池容量（m ³ ）	130	15	110	59	97

表2-5 飲料水供給施設

項目	青羽根
計画給水人口（人）	99
竣工年月	昭48.3
計画1日最大給水量（m ³ ）	40
配水池容量（m ³ ）	32



上水道事業………計画給水人口が5,001人以上の事業
 簡易水道事業………計画給水人口が101人以上、5,000人以下の事業
 飲料水供給施設………計画給水人口が50人以上100人以下の事業
 専用水道………1日最大給水量20 m³超等の小規模水道

2.2.3 民営水道施設

本市における民営水道施設数は、平成29年度末現在、専用水道6施設及び飲料水供給施設39施設となっております。

毎年、各施設に対してアンケート調査を実施し、運転状況の確認をしています。

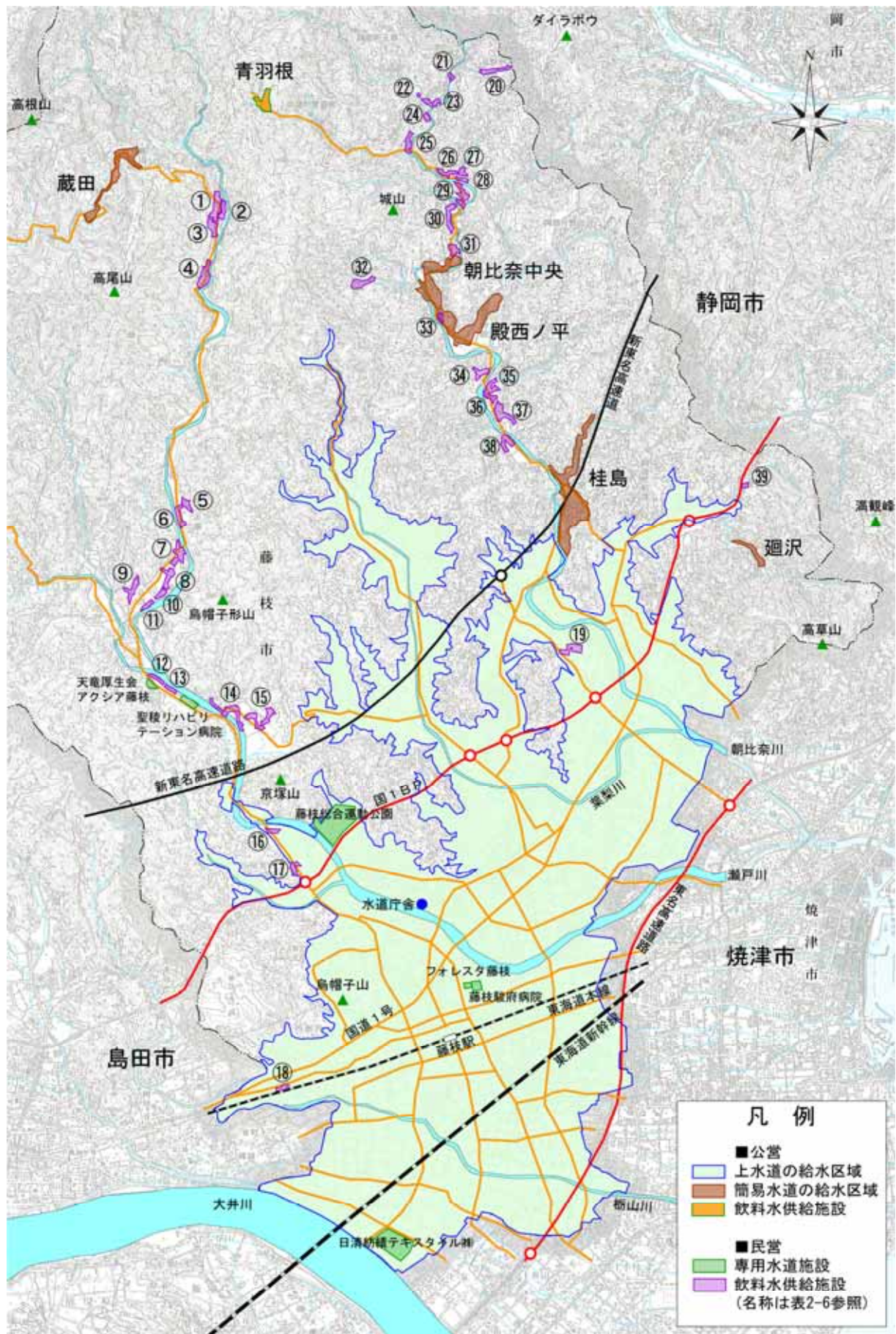
表 2-6 民営水道施設概要

【専用水道】

水道事業の名称	現在 給水人口 (人) 平成29年度	給水戸数 (戸) 平成29年度
日清紡テキスタイル㈱	0	-
藤枝市総合運動公園	-	-
医療法人社団凜和会 藤枝駿府病院	230	-
医療法人社団聖稜会 聖稜リハビリテーション病院 介護老人保険施設 グリーンヒルズ藤枝	220	-
医療法人社団凜和会 フォレストア藤枝	100	-
社会福祉法人天竜更生会 アクシア藤枝	85	-
計	635	

【飲料水供給施設】

水道事業の名称	現在 給水人口 (人) 平成29年度	給水戸数 (戸) 平成29年度	水道事業の名称	現在 給水人口 (人) 平成29年度	給水戸数 (戸) 平成29年度
①市之瀬中央	78	32	②井口原	5	2
②市之瀬11組	23	8	②中平	12	4
③内裏沢共同	25	7	③玉取谷倉	36	12
④峠共同	22	12	④浮島諏訪	9	3
⑤藤太夫山の手	23	8	⑤玉取近又	40	14
⑥藤太夫島道通共同	9	4	⑥小園第3	41	15
⑦原上組共同	50	19	⑦小園シボ沢	33	9
⑧本郷原下	32	12	⑧小園第1	35	18
⑨萩間山根	70	18	⑨小園第2	58	22
⑩萩間河原上組	25	7	⑩沢口	11	7
⑪萩間下	35	9	⑪小丹原	37	13
⑫宮原下荻前共同	40	10	⑫笹川	12	4
⑬宮原新田組	21	7	⑬新舟宮ノ島	30	11
⑭助宗丸宮共同	20	10	⑭羽佐間上協同	49	14
⑮助宗東組共同	30	14	⑮羽佐間坂下	66	19
⑯堀之内10組	25	8	⑯羽佐間2班	36	11
⑰堀之内1組	32	10	⑰羽佐間東田	48	15
⑱三軒屋中	52	14	⑱桂島大上	50	14
⑲仮宿上組	88	23	⑲坂下	12	5
⑳玉取沢	15	5	計	1,335	449



背景：国土地理院の5万分1地形図

図2-3 市内の水道